



届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼 JAあいら

あいら

▶トピックス…フレッシュミズ組織の立ち上げ、
60周年事業に向けた取組み 他



2014

7

July

No.267



*詳しくは15ページに掲載

第22回通常総代会開催

J Aあいらは5月27日、霧島市溝辺町のグリーン文化ホールみそめ館で第22回通常総代会を開催いたしました。

管内の総代472人（議決権行使書面99人含む）出席のもと、提出9議案全てが承認・可決された他、T P P（太平洋連帯協定）に関する特別決議が提案され採択されました。

2014年度は、担い手の育成支援や販売力の強化、コスト低減等により活力ある農業づくり、地域貢献活動や全戸訪問活動等を通じ安心と心の豊かさを実感できる地域社会づくりなど、地域と共に成長するJ Aづくりに取り組みます。

各部門の受賞者（敬称略）

【農産部門】
重田 ケイ子（福山区域）

【畜産部門】
乗添 豊年（牧園区域）

【共済部門】
（有）徳光自動車商会
代表取締役 徳吉 光男（隼人区域）

【貯金部門】
栗野小学校（とも貯畜組合（湧水区域））

【特別表彰】
平國 進郎（故人 隼人区域）



受賞者



総代会池田議長挨拶

いぶら



本日ここに、第二十二回J Aあいら通常総代会を開催するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

総代の皆様にはご多忙のところ、早朝より多数のご出席を賜り、衷心より御礼を申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、公務ご多用のなか、鹿児島県をはじめ各市町長、県連合会、関係機関の皆様にご臨席を賜り、盛大に開催できますことに、心より感謝と御礼を申し上げます。

なお、平成二十五年各部門の事業に多大な貢献をされ、栄えある表彰・感謝状を受賞されました個人・団体の皆様に、お祝いを申し上げます。

さて昨年は、安倍政権によるデフレ景気からの脱却と、景気回復をめざした金融政策、財政政策、経済成長戦略がすすめられるとともに九月には二〇二〇年の東京でのオリンピックの開催が決まり、期待感から景気は徐々に回復基調となってきましたが、四月の消費税増税により経済の先行きに一抹の不安が残っております。

こうしたなか、昨年三月安倍総理は、T P Pへの正式参加を表明し、その後、交渉がすすめられてきました。先月、オバマ大統領が来日し、日米首脳会談が開催されましたが、共同声明では「前進する道筋

を特定」とされるところに、先週、シンガポールで行われたT P P閣僚会合でも実質合意に至らず、七月の首席交渉官会合が大きな山場になると見られます。

引き続き、予断を許さない厳しい状況が続いていきますが、私たちとしては、交渉がいかなる状況となった場合でも、米・牛肉など農林水産分野の重要五品目のみならず、医療や食の安全など国益が守られるよう、政府方針となっている国会および自民党決議が必ず実現されること、また政府が国民への十分な情報開示を行うことを、徹底して求めていかなければなりません。引き続き、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

一方、農家経営は、円安による輸入原材料が高騰し、生産資材等生産コストが高止まりするとともに、天候不順等による減収や農産物価格の低迷など、引き続き厳しい状況が続きました。

さらに、昨年末、政府により、農地中間管理機構の創設や米の直接支払交付金の五年後廃止、経営所得安定対策の見直しなど、新たな農業・農村政策が示されましたが、詳細が不明なことから、今後が不安視されます。

加えて今月、政府の規制改革会議が農協改革に関する提言を行いました。組織理念や組合員の意思、経営実態と大きくかけ離れた内容となっております。

私たちは協同組織として、農業者の所得増大と国民への食料の安定供給に向け、自らの改革は自らの手で成し遂げるべく取り組んでまいりますので、ご理解をお願いいたします。

このような中、二十五年度は「届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼」の理念のもと、第三土曜日に全職員による一斉全戸訪問活動に取り組みました。

組合員・利用者宅を訪問し、情報提供や声をこれからに活かそうという活動ですが、支店便りの発行やキャンペーンの紹介など、創意工夫ある活動となっており、また、ねぎらいの言葉や感謝の言葉をいただくなど、今後も組合員とともに歩むJAを目指してまいります。

もう一つが、支店を核とした地域貢献活動です。十二支店で職員が知恵を出し合い、サッカー教室や小学校の草刈清掃、高校文化祭への参画など特色ある取り組みが展開されました。そのなかで、小・中・高の学校関係者やPTA、行政、女性部との交流が広がりつつあり、JAの意義・存在を地域に知らしめる一助となっております。

こうした新しい取り組みと併せ、事業運営を行ってまいりました。販売事業は畜産を除くお茶、野菜等販売価格の低迷、購買事業は高齢化や競合店の進出など購買取扱高の減少、信用事業は融資の伸び悩みによる収益性の悪化、共済事業は長期保有高の減少など、厳しい環境にありました。

結果として、一億二千七百万円余りの未処分剰余金を確保することができましたが、自己資本の減少や経営環境の急激な変化等に対応するため、利益準備金や目的積立金など引き続き内部留保に努めていく必要がありますので、総代各位の深いご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

二十六年度につきましても、国の監督指針や検査手法の転換等を踏まえた適切な対応が求められており、経済事業の収支改善対策をさらに強化するとともに、組合員・利用者が満足、感動するサービスの提供に向け、第八次中期三か年計画と第四次経営改善計画を踏まえ、

第一に、農業者が意欲を持って働ける活力ある農業づくり

第二に、安心と心の豊かさを実感できるくらしづくり

第三に、自ら行動し、共に感動し、信頼される人づくり

第四に、協同を支え、地域とともに成長するJAづくり

の四つを重点方針として定め、行政・関係機関と一体となりながら、「届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼 JAあいら」の理念実現に向けて全役職員が総力を結集し各事業に取り組みますので、総代各位のより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、行政をはじめ各関係機関のご指導・ご支援に心から感謝を申し上げますとともに、総代各位のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。あいさつといたします。

平成二十六年五月二十七日

あいら農業協同組合

代表理事組合長 樋脇 建治



承認の挙手をする総代の方々

新 役員の紹介

ごあいさつ

初夏の候、組合員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

申し上げます。

さて、この度の第22回通常総代会終了後の理事会において、代表理事組合長に再任頂きました。

TPPや農協改革など現下の農業情勢や社会情勢など取り巻く環境を考えますと、大任であり、身の引き締まる思いではありますが、「届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼 JAあいら」のビジョン実現に向けて、行政・関係機関と連携して農業者が意欲を持って働ける活力ある農業づくりや、全戸訪問活動や地域貢献活動をはじめ、組合員とともに歩み、地域になくはならないJAづくりをすすめるため、課題等に対し直球勝負で取り組んでまいる所存であります。

組合員皆様の多大なるご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

代表理事組合長 樋脇 建治



金融共済担当常務 中條 秀二



経済担当常務 黒葛原 富夫



常勤監事 尾谷 光幸



代表監事 窪田 安廣

フレッシュミイズ組織の立ち上げ、60周年事業に向けた取り組み

JAあいら女性部は4月24日、本所会議室で通常総会を行いました。各地区代表の女性部員やJA関係者、来賓者約40人が出席しました。

会では隈元よね子女性部長が「平成25年度は、中期3か年計画の初年度として、フレッシュミイズ活動を活性化するため、心ひとつに」をスローガンに若い世代の加入促進に重点的に取り組みました。」と挨拶しました。

国分地区の久徳みつえさんを議長に選任し、今年度の事業計画を実践するため「フレッシュミイズ組織の立ち上げ、60周年事業に向けた取り組み」を基本方針とする事など、議案4件が原案通り承認されました。

なお、任期満了に伴う改選が行われました。主な新役員は次の通り(敬称略)

- 部長 隈元よね子
- 副部長 馬場恵津子 森山マスマ
- 監事 寺辻勝子 松尾ちづ子



女性部総会・議長の久徳みつえさん

「あいら牛」ブランド確立にむけて共励会・総会



受賞した関係者

あいら農協肥育牛部会の肉牛枝肉共励会及び総会が5月9日、曾於市末吉町の南九州畜産興業(株)で、生産者やJA関係者約30人を集め、「あいら牛」ブランドの確立と、経営の安定と所得の向上を目的として開催されました。

共励会では、32頭の出荷牛に対して、歩留まり・肉質等の厳しい審査が行われ、A5評価が6頭選ばれる好成績を収めました。1席には吉松地区の西武信さん、2席に霧島肥育牛センター、マーケット賞に(有)竹中畜産が選ばれました。

総会では、26年度の枝肉共励会(年3回)や研修会を実施すること、消費者ニーズにあった牛肉の生産と販売力向上を目指し、「あいら牛」の銘柄確立に努めることなどを決めました。

平成新茶まつりで「きりしま茶」をPR・販売

5月10・11日に鹿児島市のJR鹿児島中央駅前アミューズ広場で開催された第17回平成新茶祭りで「きりしま茶」を出品しました。試飲・宣伝販売を実施し、買い物客や観光客に喜ばれました。

鹿児島県茶業会議所主催で、緑茶に親しんでもらおうと、県内のかごしま新茶の代表12銘柄を一堂に集め、イベント・販売を目的に行われました。

JAあいらのブースでは茶業センター課の職員が、つめ放題のお茶やかごしまブランド製品の指定を受けている特上茶・深むし茶の「きりしま茶」を用意して、笑顔で対応。来店者に商品ごとの細かい情報を提供して、PRに努めていました。

また、イベント広場では百円茶屋がオープン、霧島市立国分中央高校の生徒6名で同高生徒が開発したお茶入り菓子と新茶で買い物客や観光客をおもてなししていました。



「きりしま茶」が人気。JAあいらブース



お茶マイスターと一緒に国分中央高校生がPR

「JA版農業電子図書館」を全部署に配置



富隈支所中山曉支所長より説明を受ける組合員さん

地域に密着した営農指導の強化に力を入れるため、農山漁村文化協会が開発した情報提供システム「JA版農業電子図書館」を統括支店・支所・営農センターなど全ての事業所に配備し、また、経済事業を行なっている部署には、持ち運び可能なタブレット端末を別途20台導入しました。

「JA版農業電子図書館」は、病害虫や雑草・農薬相談、くらしの情報がタッチパネル式のタブレット端末で迅速に検索でき、わかりやすく提供ができるのが強みで、組合員や利用者へのサービスの一環として導入したものです。

「JA版農業電子図書館」はスマートフォンでも閲覧することができ、ため、組合長をはじめスマートフォンを持つ261人の職員が、全戸訪問活動、渉外活動時における組合員さんからの相談に、営農指導員が不在でも、正確かつ最新の情報が即座に提供できます。